

企業での情報化

ポイント

企業での情報機器の普及状況

EUC（エンドユーザ・コンピューティング）、EUCの普及

1. 企業での情報機器の普及状況

～企業での情報化の状況～

企業の規模や業種・業態によって大きな差がある



現在急速に進んでいる

コロナ渦



テレワーク

(リモートワーク・在宅勤務)



PC・タブレット・スマートフォンなどの情報機器の普及が加速

増加

パソコンの保有状況

企業でのパソコン装備

企業では大量のデータを迅速に処理するために、メインフレーム（大型コンピュータ・汎用コンピュータ・ホストコンピュータなど）が多く設置されている



インターネットの利用状況

図表4-2-1-3 インターネット利用率の推移¹



大きい画像はこちら

(出典)総務省「通信利用動向調査」<https://www.soumu.go.jp/ichotsusintokei/statistics/statistics05.html>

インターネット利用率が高い



広く利用されている

インターネット利用用途

- ・ 電子メール
- ・ 一般オフィスシステム
(ワード、エクセル等)
- ・ 給与・経理業務の
パッケージソフト

社外とのネットワーク

大量のデータ通信には専用回線の利用



インターネットへと移行している

LAN・CSSの普及状況

- LAN：建物内のパソコンなどを
接続するネットワーク
- CSS（クライアント・サーバシ
ステム）
：コンピュータをサーバと
クライアントに分け役割
分担をして運用する仕組
み

大部分の企業が導入

イントラネット

企業内など限られた範囲内で利用可能なネットワーク環境であり、ログイン・アクセスできるのも権限のある社員のみに限られます。



急速に普及

2. 情報システムの利用形態

コミュニケーション系システム	情報検索系システム	基幹業務系システム
<p>電子メールや電子掲示板のような利用形態です。それを構築するソフトウェアをグループウェアと言う</p>	<p>情報検索を実現するためのソフトウェアやハードウェアによって構成されるシステムである</p>	<p>経営活動に直結する企業活動の根幹を担うシステムである</p>

EUC

EUC (エンドユーザ・
コンピューティング)

- EUCとは、情報の利用者が、自ら情報を取り扱えるようになっているコンピューターシステム。特に企業内で、コンピューターを利用して現場で実務を行う者（エンドユーザー）が、自らシステムの構築や管理・運用にかかわること。システム構築を外部に完全委託するのではなく、実際の業務に適したものを作ろうという目的から生まれた。

EUCの普及

初期のEUC

- 1970年代後半に使われ出した用語
- 操作に専門的な技術を要する大型コンピュータで、業務部門の利用者は電算部門の専門の技術者やオペレータに端末の操作やデータの入出力の依頼をしてシステムを利用していた

現在のEUC

- 1990年代後半頃になるとオフィスで一人一台パソコンが与えられ、従業員が自分で操作するのが次第に当たり前になっていき、通常システムの使用に関しては技術部門の仲介は不要になった。

EUCの普及

- ソフトウェアやパッケージ製品をそのまま利用するのに留まらず、業務に必要な個別のアプリケーションなどを利用者が自ら開発・運用することが進んでいる
- メリットは「利用者自らが利用しやすいシステムを構築できる」「必要な人が、必要な時に必要な情報を得ることができるため情報活用を図ることができる」などです。特に、電子メールやスケジュール管理、掲示板機能を持ったグループウェアを活用することで、社員同士の情報共有と情報活用が図られるようになりました。

まとめ・考え

企業の情報化は急速に進んでいる

現在ではEUCがコンピュータ利用の大半を占めるようになった

IT時代、ビッグデータの時代といわれる昨今、最新分野の事情に明るく、深い専門性を持つ人材は必要不可欠

データを読み取って正確に分析する力、新しいシステムを開発して構築する力も必要